

# 梨の花



## 市川市立稲荷木小学校

〒272-0024 市川市稲荷木1-14-1 Tel 376-5961

<http://www.toukagi-syo.ichikawa-school.ed.jp>

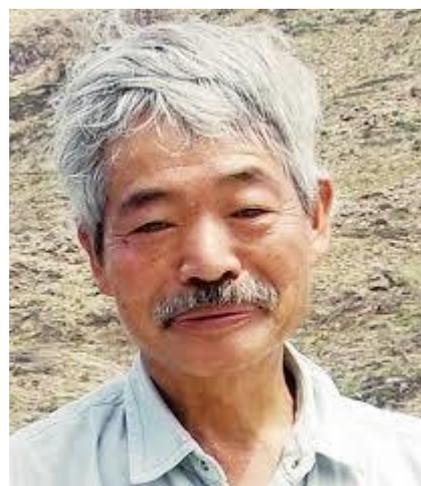
### 一隅をてらす

#### ———中村哲さんに学ぶ

校長 清田 博之

ゴールデンウィークも終わり、緑が目にも染みる美しい季節になりました。陽光に照らされる樹木の美しさを見ていると、砂漠化した大地を緑の絨毯を敷き詰めたようなオアシスに変えた人を思い出します。その人の名前は中村哲さんです。新しい年度の緊張感が薄れ始め、逆にそのことで目標を見失いかげ、学習や運動などへの意欲がわからない時に思い出して欲しい人です。

新型コロナウイルス感染症の影響で、誰もが閉塞感を感じる時だからこそ、中村さんの考え方や生き方を忘れたくないと思います。残念ながら、中村さんは2019年にアフガニスタンでテロの銃弾の犠牲となりました。保護者の皆様の中には、中村哲さんの話を聞いた方もいらっしゃるでしょう。パキスタンでハンセン病治療に携わり、医師のいない村から多くの患者が訪れてくる戦禍で荒れ果てたアフガニスタンに診療所を開き、献身的に医師として働いた人です。戦争で苦しむアフガニスタンでは「干ばつ」に苦しみ、水不足から食料も栽培できず、子どもたちが泥水を飲むような衛生環境の悪い生活を強いられてきました。中村さんは人々を苦しめていた問題に敢然と立ち向かいます。自ら井戸を掘り、さらには26キロに及ぶ用水路を完成させ、砂漠であった大地を小麦、オレンジなど様々な作物ができる緑地に作り替えた人でした。世界の人々が中村哲さんの果たしてきた実践やその生き方に感動しました。貧困や戦禍に苦しむアフガニスタンの人々のために果敢にチャレンジした中村哲さんの約30年にわたる行動から、私たちはたくさんの勇気、生きる力をいただきました。



中村 哲 (医師)

1946～2019

パキスタンやアフガニスタンで医療活動に従事。アフガニスタンで武装勢力に銃撃され死去。

中村さんは、よく「一隅を照らす」という言葉を用いたそうです。その生き方は、まさにアフガニスタンで出会った困窮した人々に光をあて、荒廃した生活状況を改善し、人々の暮らしの惨状に触れ、それを放っておけなかった、いや放っておかなかった生き方に、他者への思いの深さを教えられ、背筋がピンと伸ばされる思いがします。

コロナ禍の混迷の中、何か心穏やかにいられなくなったり、意欲が出なかつたりする時、他者のために生きた中村哲さんを思い返すことです。なにか凜とした思いが全身に湧き、いま生きているこの場所で、一生懸命に生きる大切さに気付かされるのではないのでしょうか。

本校は教育目標のサブタイトルとして「夢の実現に向けて努力する子どもの育成」を掲げています。本校の児童が一人でも「人の為に生きることに自分の夢と幸せを見出す」ようになれば…と願います。

## 1年生歓迎集会・全校歩き遠足（4月30日）



天候に恵まれた中、1年生歓迎集会と全校歩き遠足（江戸川河川敷）が行われました。市内の学校の中には、行事の削減でこの歩き遠足を取りやめているところも多いようですが、「兄弟学年との絆を深める」というとても重要な意義をもつと考えます。何よりも、下学年をよく世話をする上学年の子どもたちの姿が素晴らしい！上学年は下学年の世話をすることで「リーダー」に成長し、下学年は上学年に憧れと親しみを感じる…このスパイラルを大切にしていきたいと思います。



## 交通安全教室（5月7日）

例年、市内では5月中旬、小学生（特に低学年）の交通事故が増加します。そこで、1年生対象に「歩き方」3・4年生対象に「自転車の乗り方」についての交通安全教室を実施しました。「自転車の乗り方」については、最初に「自分たちも加害者になってしまう危険性がある」ということを映像教材を見て学び、子どもたちは真剣な眼差しで視聴していました。今年度も本校児童の交通事故0を目指していきます。

